

令和7年度国語科教員授業研修会（兼 新任授業研修会） 活動報告書

1. 日 時 令和8年2月19日（木）10:30～12:50
2. 会 場 加藤学園高等学校
沼津市大岡自由ヶ丘1979 電話:055-921-0347
3. 研修テーマ 生徒たちが文章の構成を理解し、筆者の視点の変化を捉え、生徒同士が意見を共有していく。
4. 参加者 国語科教員、国語科新任教員（1～5年目）21名
5. 日 程

10:30～10:40 開会式

部会長挨拶 浜松開誠館中学校・高等学校 校長 高橋千広先生

会場校教頭 加藤学園高等学校 教頭 伊藤哲也先生

10:50～11:40 研究授業

授業者 岡田直樹

クラス 進学コース1年3組

授業内容 現代の国語『少女たちの「ひろしま」』

11:50～12:40 研究協議・研究授業振り返り

12:40～12:50 諸連絡・アンケート記入・解散



6. 感想・ご意見

- ・教員と生徒との距離感が近く、話し合いに活気があった。
- ・日々の授業で生徒との関係が良好であるからこそ、質疑応答がスムーズと感じた。
- ・生徒の答えた内容を、教員の言葉含めてフィードバックすることは、生徒にとって嬉しいことだろうと感じた。
- ・今回の教材の意義をもう少し具体的に考える必要がある。
- ・昔と現代をつなぐ回路というワークテーマなのであれば、昔と現代の比較対象をより具体的に見つめる必要があるだろう。
- ・本文を丸読みさせる意義は何か。段落ごとに文章を読ませると内容理解につながるだろう。

7. 今後の展望

新任研修を兼ねた研究授業であったため、授業準備や教材研究の重要性を改めて実感する機会となった。限られた授業時間の中で、生徒にどのような力を身に付けさせたいのかを明確にし、その目標に向けて教材をどのように扱うかを十分に検討する必要があると感じた。生徒の多様な考えを引き出しながら、本文に即した読みを深めていく授業展開が求められるため、今後も教材研究に励み、授業力の向上に努めていきたい。

また、授業は生徒の学びを中心に据えて行うべきものであり、生徒一人ひとりが主体的に考え、他者の意見を受け止めながら学びを深められる環境づくりが重要であると改めて認識した。

今回の授業では、ICT教材としてロイロノートを活用し、グループごとの意見を共有できる形で授業を進めた。他のグループの考えを視覚的に確認することで、生徒が新たな視点に気づき、自分たちの考えを深める様子が見られたため、今後も積極的に活用していきたい。

一方で、意見交流の中では、教材の内容から離れた発言が出る場面もあった。その際には、生徒の発言を尊重しながらも、本文との関連性を意識できるよう適切に方向付けを行う必要があると感じた。今回の研究授業で得た課題や改善点を今後の授業実践に生かしていきたい。